

グループ A

【人・大人】

- ・社会教育、指導者、大人向けの学習
- ・各分野の詳しい大人の人が、関わっている→広がり
- ・一つのテーマで集まった大人 多対多

【地域】

- ・活動拠点の付近のフィールドで体験学習している
- ・ESDとして栃木県的那須地域で三生物園での取り組みで子供を入れ実施したの良
- ・事業所もプラスになるプロジェクトだと感じた。積極的になれる



【つながり】

- ・参考になる点 行政とのコラボで、生物調査を取り込んでいる
- ・行政を入れた活動は大切なのは分かる
- ・プラットフォームメンバーで意見交換を重ねた
- ・それぞれできることには限界→広がり
- ・小さなつながりが、大きなネットワークになり、プラットフォームとなったこと
- ・つながる仕組みづくり つなげる後新の人の重要性

【気づき】

- ・今行われていること。ESDである・・ということの気づき⇒教えることの難しさばかり、考えていたが、自らが、学べるよう仕向けることのむずかしさ

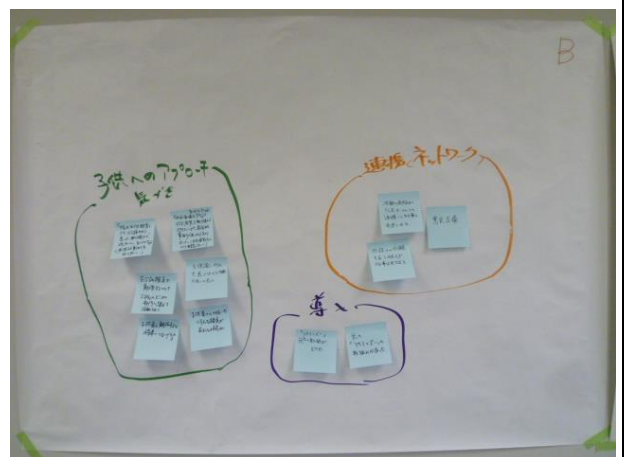
グループ B

【導入】

- ・元々「アクアとズー」の取組みがあった
- ・「アクアとズー」元々の取組みがESD

【子供へのアプローチ 気づき】

- ・「3R」のESD教育をしてどう進めたら良いか、取り組んでみたい。ネットワークとか(具体的事例を知りたい)
- ・子供達に何か気づかせる活動は良いと思う
- ・子供達とのつきあいでいろんな視点があることが解った
- ・ESDの視点で勉強することでSDGSのどこかの部門に継がる活動であり子供達と勉強すること将来につながられる
- ・ネットワークとか「地球温暖化防止」のESD教育を取り組んで行きたいが、具体的事例があったら知りたい。(出前授業のテーマとして実践したい)



【連携(ネットワーク)】

- ・意見交換 ・活動の取組みとして、各、サークルとの連携してやることは参考になる
- ・行政との問題もありかならず入ることは必である

グループC

【ESD=相互作用 つながりを意識⇒変化が起きている！】

- ・アクアとズーの相互作用
- ・既存のプログラムにエッセンスが1つ加わるだけで、まったく違う色の事業に変わる
- ・人と人のコネクションが事業によって広がる。事業によって、新しいコネクションが生まれる→協働の形

【セオリー通りの考え方でいいのか？】

→枠をはずす考え方=ESD】

- ・外来種のハイジヨ？GOOD/BAD

【なぜ地元主体でないといけないのか？】

なぜ大人と子どもが協働しなければいけないのか？】

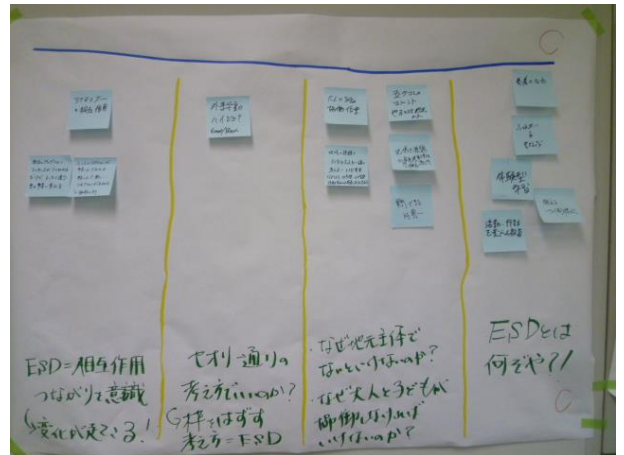
- ・地域の課題を子どもも大人も一緒に考える-とても重要、なぜなら、10年後、20年後活動するのは成長した子どもだから
- ・五かさんのコメント やるのは地元の人
- ・地域課題の抽出 気づき 解決策を考える
- ・実行できる対策・大人と子供の協働作業

【ESDとはなんぞや?!】

- ・参考になった
- ・ふれあい→まなぶ
- ・いい点 体験型学習
- ・教える→(自ら)学ぶ
- ・活動・行動を変える教育

【質問】

- ・行政を動かすこと とても難しい どのようなプロセスを？



グループD

【人と人とのネットワーク】

- ・各施設が仲間を募って巻き込んだことが良い方向に
- ・同業者以外とのつながりやすい→同感

【気づき】

- ・答えの提供ではなくヒントをあたえて自らが考えられるコト
- ・単なる環境教育(講座)とESDの違い なたねプロジェクトに見る
- ・体験を通して勉強→調査

【課題の共有】

- ・地域勉強会(意見交換)という場を設けていること。
- ・地域の課題→日常の中にどう落としこむか→むずかしい

【いいネ! 参考になること】

- ・楽しくないと続かない

【ひと工夫がキク!】

- ・ESD活動 行政の人に入ってもらう これいいね!



グループ E

【広めよう ESD】

- ・成果物から→実践にむすぶ
- ・ESD の実践する良いこと
- ・行動しながら学ぶ学習活動は有意義と思う
- ・この ESD 成果物と学校教育とのコラボ非常に良い

【質問】

- ・どういう人が参加しているのか
- ・人数の選定 30名 15名 10名
- ・実践型なの 問題提出型なの

【疑問】

- ・個別のツールはナシ
- ・宣伝が悪い
- ・チラシ参加無料は信用ナシ
- ・団体に!!地域、区に、市、全体に定員が少なすぎる
- ・日常の環境活動の発展が ESD 活動と理解する。足りないとすれば連携か？

